

令和6年度学校評価報告書

令和7年3月24日

北海道教育委員会教育長 様

北海道七飯高等学校長 図

次のとおり令和6年度の学校評価について報告します。

1 本年度の重点目標

ア	学校教育の効果を常に検証し、カリキュラムマネジメントの充実を図る。
イ	主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を展開し、思考力・判断力・表現力等の育成を図る。
ウ	予防的開発的な教育相談を推進し、生徒情報の共有等により生徒理解の深化に努める。
エ	生徒一人一人に寄り添い、自律心や敬愛の心の育成を図る。
オ	探究活動を推進し、自ら課題や進路目標を設定し、解決や実現に向けて努力する資質・能力の育成を図る。
カ	体験的学習活動を推進し、自他の生命を尊重し他者を慮り協調する態度の育成を図る。
キ	生徒の発達段階に考慮しつつ、健康で安全な生活習慣の確立を促す。

2 自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善方策

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
学習指導	- 新学習指導要領の本校の教育課程を、より生徒の実態に合わせたカリキュラム編成にする必要がある。 - 生徒の授業評価や公開授業週間の実施により授業改善を図ったが、生徒の自主的な学習態度の確立については課題がみられた。	- 町内の小・中学校ではICT教育の推進により端末を用いた授業が自然に展開されている状況にある。高校でも、端末の活用を期待する。 - 今後も学力向上に期待する。
改善方策	- 総合的な探究の時間を中心に、本校の柱である国際教育や環境教育での探究型の学びを取り入れるなど、七飯高校生の実態に合ったカリキュラム編成をさらに進める。 - 主体的・対話的な深い学びへの授業改善を図るための研修や授業評価の改善を推進する。	
生徒指導	- 基本的生活習慣の確立を図るための指導を学年団を中心に協力的・計画的に実施することができた。 - 不登校傾向の生徒や特別な支援が必要な生徒が多くなってきており、教育相談の充実と適応教室の整備が課題である。	- 非行事故が減ってきており、今後もマナー指導、SNSのルール指導やいじめ防止の指導をお願いしたい。 - 様々なタイプの生徒が在籍している現状を鑑み、先生方には、生徒に寄り添いながら見守っていただきたい。
改善方策	- 基本的生活習慣の確立について、次年度も継続して質の向上も含めて指導を実施する。 - 教育相談や特別支援などの体制をさらに強化し、個別の対応体制に対処していく。 - いじめ防止の取組を継続させ、非行事故に発展する前に対応できる体制を作り上げる。	
進路指導	- 学年との連携を深め、進学・就職ともに良い結果となったが、保護者へより効果的な情報発信を行うことが課題である。 - より高い目標をめざし、進路実現に向けて努力する意欲を育てていくキャリア教育が重要である。	- 国公立合格者を出すなど、概ね生徒の希望進路が達成されていると思う。 - 地域を支える人材を育てるため、引き続き就職指導に力を入れていただきたい。
改善方策	- 生徒の希望進路の決定を目指し、今後もガイダンス機能の充実と生徒の資質・能力の確実な育成と検証をすることで、一人一人の進路に合った指導を展開していく。 - 総合的な探究の時間は、将来のキャリアに通じるものとして、地域の企業や人材をさらに活用するなど、さらなる充実をめざして取り組む。	
公表方法	学校ホームページに掲載	

3 添付資料

- (1) 令和6年度(2024年度)学校評価（保護者アンケート）結果
- (2) 令和6年度(2024年度)学校評価（教職員自己評価）結果